

全 員 協 議 会 記 録

令和 8 年 9 月 29 日（火）
10 時 00 分～10 時 42 分
全 員 協 議 会 室

〔出席議員〕

澁谷議長、笹田副議長

西田一平議員、今田議員、岡山議員、遠藤議員、花田議員、戸津川議員、
村木議員、森谷議員、大谷議員、沖田議員、足立議員、川上議員、柳楽議員、
串崎議員、小川議員、岡本議員、芦谷議員、佐々木議員、西田清久議員、
川神議員

〔執行部〕

出席なし

〔事務局〕

下間局長、濱見次長、森井書記

議 題

- 1 議会による令和7年度事業に係る事務事業評価について
 - (1) 事務事業評価シート（議員作成分）について
 - (2) 議会評価意見書（各委員会作成分）について
 - (3) 議会評価意見書の作成について
- 2 議会評価意見書の取扱いについて
- 3 その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[10 時 00 分 開議]

○議長

ただいまから令和8年9月29日の全員協議会を始める。
それでは議題に入る。

1 議会による令和7年度事業に係る事務事業評価について

○議長

本日は全議員が作成した事務事業評価シートや委員会による所管事務調査、決算審査での質疑応答を受けて、各委員会が作成した議会評価意見書を1件ずつ見ていき、各委員から意見などを伺いながら協議し、委員会が作成した評価意見書を、議会としての評価意見書として作成していく。

昨日、LINE WORKSで周知があり、事前に確認していると思うが、この会議の場で評価意見書の文言調整をしていくので、よろしくお願いします。

(1) 事務事業評価シート（議員作成分）について

○議長

資料1-(1)-①から④を参照されたい。これらは4事業全てについて、全議員が作成した事務事業評価シートで、事業ごとにまとめている。

(2) 議会評価意見書（各委員会作成分）について

○議長

資料1-(2)を参照されたい。こちらは先ほどの全議員が作成した事務事業評価シートなどを踏まえ、3常任委員会で作成した議会評価意見書をまとめたものである。総務委員会が1事業、文教厚生委員会も1事業、産業建設委員会が2事業である。なお、委員会によって表記の仕方が少しずつ違っていたので、事務局で体裁を統一させてもらったが、内容は変更していない。

(3) 議会評価意見書の作成について

○議長

冒頭に述べたとおり、委員会が作成した評価意見書を、議会としての評価意見書として調整していく。不明な点などはしっかり皆で確認しながら、議員間で十分に討議して、最終的により良いものに仕上げていければと思うので、お願いします。

それでは1事業ずつ見ていく。

①協働推進事業（地域支え合い生活支援事業補助金）

担当委員会では、事業内容は「要改善」、予算規模は「現状維持」としている。これについて、総務委員会沖田委員長、この事業を取り上げた理由と補足などあれば発

言をお願いする。

○沖田議員

選定した理由は、地域において草刈り人材などが不足しているという地域の声は多く聞いている。その中において、制度として使いにくいということが課題になっている。事業自体は決して悪いものではないので、それをどう使いやすくしていくかというような視点で事業を取り上げた。補足説明は特にない。

○議長

それでは、この事業の評価について、議員から何か意見はあるか。

○森谷議員

今の沖田議員の話を聞いていると、要改善で予算拡大であるべきだと思うが違うのか。

○沖田議員

森谷議員の言うことももっともかと思う。というのも、令和7年度事業において執行率が非常に低いということで、まずは制度を改善してみて、そして必要に応じて予算を拡大していくという意見も出たが、とりあえず単年で考えたときは現状維持で良いのではないかということで話は落ち着いた。

○森谷議員

あちらこちらで議員の一般質問などでも草刈りが出てきており、私も草刈りについてはいろいろ考えているが、高齢でできない、何とかしてくれという声や、町内会はもうやめてお金でシルバー人材センターに頼んだというような形になっている。もう一つは、農業の補助が入っているところは草刈りの援助はしないとか、家の生活圏の周りだけは草刈りをするなど、草刈りの補助制度もばらばらである。せっかく取り上げて認識しているのであれば、100万円、200万円のものであり、450億円から比べれば非常に小さいものである。それを取り上げたということは、この項目について重視しているのではないかと考えている。各委員が一般質問などで草刈りのことを問題視していることを考えると、要改善は分かる。様々な制度との合併みたいな形でやるかなどいろいろあると思うが、予算規模としては拡大ではないかと思うが違うのか。

○佐々木議員

この事業を提案した一人として発言する。今、森谷議員が言われたことは私も委員会の中でずっと言っており、私の評価は事業は要改善で予算も拡大だった。しかし、委員会の中でいろいろ議論する中で、まずはいろいろな縛りを取ることが大事だと。農地は駄目だとか、上限をまず取るのが事業の要改善であり、それがまず先で、今とても予算上限に及んでいないので、そこをまず使い切った上で、それ以上必要なことが発生したときに予算の拡大を要望すべきだという意見が委員会の中であったので、順番としてはそういうところで委員会の中では収めた。

○森谷議員

佐々木議員の言われることは分かったが、要改善も私と一緒にだからよく分かる。それなのに予算はとりあえず現状維持するということが分からない。違う制度の草刈り

のようなものをやるというのは、予算を増やすか減らすかで言えば増やす方でやっておかないと、一旦その増やした予算はいろいろなプラスアルファのことに使えるので、そこで現状維持にする必要はないと思う。全体の中の450億円からすれば100万円、200万円は微々たるものである。項目について重要視されたということは、やはり予算も増やすのがセットだと思うが。

○佐々木議員

全く同じ意見である。ただ、委員会の委員は7人いるので、まずは事業の改善が先で、それが今の予算に達したら次は拡大、そういう順番でやるべきだということに私が渋々賛同したということであり、それが委員会の中でのまとまった意見なので、これ以上私が主張するわけにいかないのです。そういうことになった。

○森谷議員

その思いならよく分かる。私が資料を調べて勉強した請願であっても、ここでは場が違うと言われて全否決されることがあるので、勉強している人の悩みである。よく分かる。

○芦谷議員

私の個人シートにも書いているが、草刈りに特定をすると、ほかの市がやっている中山間地域の直接支払いの制度やいろいろな制度がある。そういった事業とほかの事業との調整という視点が必要ではないかということを経験的な意見として持っている。

○沖田議員

聞き取りやアンケートをする中でそういった意見もあり、特に農地ということが一番の課題になっていた。地域から運用規程を自ら定めたものを提出するという方策を1番のところに盛り込んでいる。というのも、地域が補助金が入っていないいわゆる耕作放棄地や営利目的で使っていない農地などは、地域がこれは認めてくれということを経験規程に盛り込んで執行部に提出し、それを理解して合意形成が図られるのであればより良いものになるのではないかと。ということで、1番に盛り込んでいるつもりである。

○芦谷議員

言いたかったのは、市がやっている類似の草刈りの事業について、そこまで視点が及んでいれば良いと思う。

○森谷議員

これは、佐々木議員と私が要改善だと言われたことを、芦谷議員がまた言われたということか。ボーダーラインがいっぱいあるから、そのボーダーラインをなくして草刈りということで集合し、ごちゃごちゃしている草刈りのシステム補助をすっきりさせようというのが、私と佐々木議員が言ったことだと思うが、もう1回芦谷議員が似たようなことを言われているということか。

○芦谷議員

私のシートに書いてあるので見てほしい。

○議長

芦谷議員が出されたシートに書いてあることなのでもう一度確認してみたということだと理解したが。

○森谷議員

書いてあるなら、言わなくて良いではないか。

○議長

発言自由の原則もあるので。

○川上議員

先ほど森谷議員、佐々木議員が言われたように、私もシートの中には、この事業目的は妥当だが、制度設計が少し実情に合っていないと書いている。事業内容の改善がまず大事だろうと。予算については、制度改善による需要増加の可能性はあるけれども、現状維持で検証を進める必要があると書いている。ぜひそのように進めてもらえらると思っている。

○議長

そのほかあるか。

ないようであれば、総務委員会が提案した協働推進事業は、このようにしたいと思うが良いか。

(「はい」という声あり)

②社会福祉協議会助成事業

担当委員会では、事業内容は「要改善」、予算規模は「現状維持」としている。これについて、文教厚生委員会足立委員長、この事業を取り上げた理由と補足などあれば発言をお願いします。

○足立議員

選定した理由は、令和8年度当初予算、そしてこの間の予算決算委員会も含めてであるが、社会福祉協議会には毎年1億円前後の非常に高額な人件費補助が入っている。この人件費補助は、浜田市の予算の中でもこれだけの規模で出しているのは社会福祉協議会しかない。そうした意味で非常に市民の方々も注目され、なおかつそのお金がどのように使われたのかというところを、各委員の質疑などにもいろいろ出ているところがあった。そうしたことを踏まえ今回社会福祉協議会のことを出した。また、時代の背景として社会福祉協議会を取り巻く状況が刻々と変わっているというところもあり、社会福祉協議会の柔軟な対応に合わせた予算計上、そして予算の執行がどのようになっているのかという確認の意味でも、今回この事業を提案をした。

○議長

それでは、議員から何か意見はあるか。

○森谷議員

私は文教厚生委員会であるが、これを考えているときにちょうど新聞で、社会福祉協議会に対してあれもこれも仕事を増やすというような記事が載っていた。社会福祉協議会は国からしても重要なものだと思っているということで、今は社会福祉協議会

がきちんとやっているのかという流れになっているが、それはきちんとやってもらう前提で、いろいろなサービスを付け加えていかなければいけないということで、要改善、そして予算は当然拡充ということを今から背中を押しておかないといけないと思って、拡充に決まっていると考えた。予算については、他市に比べて水産・産業系がすごく多いので、割を食っているのが教育委員会と福祉系である。だからそれをよそと同じようにとは言わないが、ある程度正常なバランスに戻すことによって予算確保はできると考えていた。

○議長

担当委員会なので、意見として聞く。そのほか、議員から意見はあるか。

(「なし」という声あり)

それでは、この事業については、このようにしたいと思うがよろしいか。

(「はい」という声あり)

③「山陰浜田港」水産物ブランド化推進事業

担当委員会では、事業内容は「要改善」、予算規模は「現状維持」としている。これについて、産業建設委員会村木委員長、この事業を取り上げた理由と補足などあれば発言をお願いします。

○村木議員

選定した理由は、特に水産分野は国や県の事業が多く市の裁量が限られている中、この事業は市が主体的に設計しているブランド化の推進の施策であるということから、市としての成果を可視化するために今回選んで事業を確認したところである。補足は特にない。

○議長

それでは、議員から何か意見はあるか。

○森谷議員

水産業と言っても、全体の規模からいうと一次産業の水産業は 30 億円ということで、売上げだけでも 1%にも及ばない。GDPでいうと 10 億円だから、さらに 3 分の 1、0.3%である。ほかの産業もいっぱいある中で、久保田市長が就任したときは 50 億円の売上げを 100 億円にすると行って、10 年以上やって 30 億円にまで下がってしまったということで、いくらつぎ込んでも少し穴のあいたバケツとは言わないが、1 億円の修繕費を出してもすぐやめたりとか、税金が水産業など産業系にばかり使われたけれども効果がないということなので、水産という宗教みたいな形はもうやめて、いくら漁港があったとしても、いろいろな産業に公平にやるべきではないかと思って、これは廃止とは言わないけれども、公平に分担し、ほかのところも見回しながら産業建設委員会ではやってほしいという意見である。

○村木議員

確かに市政に農業、林業等々あるわけであるが、今回これを取り上げた理由としては、産業建設委員会としては漁業と商工が 1 か所にあるこの水産都市浜田をいま一度

復活するためにも、今回この事業がどのように使われているか、実際魚価も単価が上がっているというような実績もある中で、ここに書いてあるとおりやはりその担い手だったり、この補助事業の使い勝手の悪さなどが指摘されたので、今回これを取り上げることによって取組課題にもつながるような結果が出ればということで上げさせてもらったところであるが、今言われたことは確かにそのように思っている。

○森谷議員

言うことは分かる。しかし、4号7号で60億円の補助をしていると認識しなければいけない。60億円の補助をしているのに、50億円からどんどん売上げが下がってきているということは、そろそろ補助も水産都市と言ってはいるものの、そのほかの産業の割合が大きくなっているんで、水産だから特別に補助するという考えはそろそろ方向転換すべきと私は思っている。

○議長

そのほかあるか。

(「なし」という声あり)

あと、この文言であるが、8行目の「このため」という表現を前の書式と合わせるために、「以上の点から」に変えたいと思うがよろしいか。

(「はい」という声あり)

そのほかあるか。ないようであれば、このようにしたいと思うがよろしいか。

(「はい」という声あり)

④観光協会助成事業

担当委員会では、事業内容は「要改善」、予算規模は「現状維持」としている。これについて、産業建設委員会村木委員長、この事業を取り上げた理由と補足などあれば発言をお願いします。

○村木議員

選定した理由は、市の情報の発信、観光客の増などは市の喫緊の課題であり、観光客の誘客及び情報の発信力の強化が求められている。本事業の実態を正確に把握し、事業効果を評価検証する必要があるため上げさせてもらった。補足としては、今回各委員からいろいろと事業内容、改善内容をもらっており、委員会の中でも我々の委員会だけでなく各委員から出た意見もしっかり反映させてもらって、執行部への提案内容を7項目という形でまとめた。

○議長

それでは、議員から何か意見はあるか。

○森谷議員

観光協会助成事業に対してこの予算を使っているが、使わなかった場合どのような状態が予想されるか。つまり、この予算を使うことによって効果はどのように読んでいるかということである。簡単にいえばCBA（費用対効果）であるが、どのように考えるか。

○村木議員

CBAについては把握はしていなくて申し訳ないが、この予算があるがために、いわゆる観光協会の問合せだったり、情報発信がある程度ホームページやSNSに載っているので、そういったところで浜田に来る方がネットなどで事前に調べて来ていると思っているところである。ただ、まだまだ一般質問でもあったが、稼ぐ事業なども今後進めていくためにも、この事業については現状では進めていくことを期待しているといったところである。

○森谷議員

これは何年間続いているのか。

○村木議員

継続である。

○森谷議員

継続なら、これをやることによる費用対効果という数字の効果ではなくて、何を期待しているか、その言葉ではどういうことを期待しているのか。観光客が来て買物をしてご飯を食べる。ホテルに泊まる。それ以外には何かあるのか。

○議長

今シートを送ったが、このシートが執行部の観光協会に対する助成事業の考え方である。この事業に対して、この執行部の考えに対して評価するというのが担当の委員会で言われたことである。

○森谷議員

目標実績がある。令和6年、180万人とか。これはどういうカウントか。宿泊22万人とか、どうやってカウントができているのか。

○川上議員

先ほどからCBAの話になっていると思うが、先般の予算決算委員会でもCBAについてしっかり質問させてもらい、執行部にも答えてもらったので、この評価シート、これだけはニュアンスが変わってくると思うので、新たなものが出てくる場合はそれを期待している。現在のシートに対して質問されても、それは執行部のことであるので、答えられないというのが事実だと思っている。

○森谷議員

何もないときでも浜田のホテル、旅館はほぼいっぱいである。観光客が来れば、ビジネスで利用している人たちが泊まれなくて、江津や益田などに振り分けられざるを得なくなって、経常的に宿泊を利用している人たちは困っているというか、迷惑な状態になっている。それを合わせて何十万人ということなので、これは客が浜田に来ることによって、本来浜田に来ていた客が周辺市に泊まるということなので、周辺市のプラスになるということで、浜田はこの人たちが極論からすれば来ても来なくても、20万人という宿泊客はキープされているということである。もう一つ、イベントがある。イベントというのはあれば良いという空気があるが、あれば良いのだったら毎週とか毎日とかやれば良いではないか。効果があるのだったら。だけれども、年に何

回しかないイベントについても、もう仕方なく出ている人がいる。市の職員は給料になるが、ほか会社の人などはボランティアだったり、またかということで疲弊している、疲れ切っているという状態なのに声が上げられないと。村八分になるのが怖いからと。こういうことも考えながらやっていく必要があるので、よろしくお願いします。

○議長

観光協会助成事業のシートは、前の三つの委員会提案と書式が少し違うので、事務局で書式を合わせた。それを今送る。少し時間を取るので、10分から15分程度、休憩とする。その間に熟読をしてもらいたい。これは明日委員長に提案をしてもらう関係で、書式を合わせたい。

ここで暫時休憩する。

[10 時 30 分 休憩]

[10 時 35 分 再開]

○議長

会議を再開する。送った文書について、それでよろしいか。

(「はい」という声あり)

それでは、先ほどの意見を踏まえて、「以上の点から」と、この差し替えの文書をもとに議会評価意見書を修正とする。

それでは、議会の総意ということで、議会評価意見書については、このとおりとしたいと思うがよろしいか。

(「はい」という声あり)

2 議会評価意見書の取扱いについて

○議長

先ほど、議会としての評価意見書を作成した。この評価意見書については、委員会で十分に調査や議論をして作成した評価意見書であるので、昨年度と同様に、議員提案の議案（決議案）として、市へ提出したいと思う。

提案者についても、昨年度と同様に、3常任委員会の委員長3名による議員提案でいかがかと思うが、それでよろしいか。

(「はい」という声あり)

また、議員提案の場合、提出者と賛成者の区分が必要になるので、委員会条例に規定されている順番に、総務委員長の沖田議員を提出者、文教厚生委員長の足立議員と、産業建設委員長の村木議員を賛成者とさせてもらう。

この案について、これで良いか。

(「はい」という声あり)

それでは、このとおり議員提案とし、提案者は総務委員長の沖田議員からということで、最終日に提案をお願いします。沖田委員長よろしくお願いします。

この件については、こうして全議員で協議しているので、議会運営委員会を開催することなく、また、本会議では質疑、委員会付託、討論を省略して、簡易採決で行いたいと思う。議員の皆それでよろしいか。

(「はい」という声あり)

3 その他

○議長

まず、今後の事務事業評価の実施についての意見を伺いたいと思う。今回、議会による事務事業評価は、改選前を含めて2回目の実施である。議員から、この事務事業評価の実施の方法、今後の課題などについての意見があれば発言してもらい、今後の実施方法などの参考にしていきたいと思う。何か意見はあるか。

○川上議員

これまでもそうだが、各委員会で取り上げた事務事業について、委員会でしっかり協議しながら作り、なおかつ他の議員も一緒に作られたということになってくると、委員会以外の委員の手間が非常に多いと思う。それで、委員会で評価したものを議会に上げて、それで各委員に見てもらおうという形にするのが一番良いのではないかと考えるがいかがか。

○森谷議員

この事務事業評価は必要ないと思う。昔はなかったし、じっくり資料を読み込む時間もない。先ほども質問しても執行部の資料を見ろという形で、委員長も頭の中に入っていないような形で、今まで個々の議員が自分がそうしたいというものを執行部の窓口に行ったり課長に会ったり、市長に会ったりしてやるというのが今までのスタンダードなやり方なので、各委員の貴重な時間を使ってまでやるほどのことではないので、個々に任せて、この評価の制度自体はなくす方が良いと思う。

○川上議員

森谷議員が言われたことも納得するが、先ほど私が言ったように、委員会で委員会の所管事務に対して、委員会としてしっかり議論をして評価するということが必要だと思っている。ただし、評価すべきものを全議員がやっていくというのは非常に難しい。必要ないと思うので先ほど言ったように、委員会だけでやれば良いのではないか。

○佐々木議員

今の川上議員が言われたことを私もここ二、三年の評価で思っていた。所管委員会では、いろいろな調査をしながら、あるいは視察をしながら決めた事業に対して評価をすべく検討を行っていくが、それ以外の議員で余程この事業に興味があるような方は別だが、なかなか意識を持たないいろいろな調査が入ってこないという現実がある。よってやはり委員会の中でこの事業をある程度固めて、最後に全員協議会の場でほかの議員から意見があればということで仕上げていくのが理想と思う。もう1点、個人でという話もあったが、この事務事業評価の重さというのは、個人でやるよりやはり委員会、ひいては議会として執行部に提案することで非常に重みが出るという意

味合いで多分やっていることだと思うので、この評価自体は非常に意義があることだと私は思う。

○議長

そのほか意見はあるか。

(「なし」という声あり)

ないようであれば、この問題について先ほどの意見を踏まえて、議会運営委員会で今後協議してもらおうと思うが、よろしいか。

(「はい」という声あり)

小川副委員長、よろしいか。

○小川議長

分かった。

○議長

そのほか、各議員から何かあるか。

(「なし」という声あり)

それでは以上で全員協議会を終了する。

[10 時 42 分 閉議]

浜田市議会全員協議会規程第6条の規定により、ここに全員協議会記録を作成する。

浜田市議会議長 澁谷 幹 雄